

KIS 国際物流ニュース！ (2020年2月号)

国際物流業務に役立つ 最新情報をお届け！

国際事情、行政、システム、導入事例、多彩な情報からピックアップ



人口急増に対応するアフリカの住宅供給の新しい取り組み

建築資材企業にとってアフリカは将来的な有望市場であることは間違いありません。しかし人口の増加と都市集中が加速し住宅問題が深刻化しています。人口増のペースが最大なのがサハラ砂漠以南のサブサハラ。2050年には倍増の21億人、2100年には約38億人と世界の人口の3割を占める見通しです。各国政府による大規模な住宅建設では、不適切な価格設定、政局不安や汚職、不透明な土地所有権により庶民には手が届かない、いきわたらないのが現状です。アフリカにおいて「手頃な値段の住宅」を供給するため様々なアプローチが行われています。クラウドファンディングによる参加型出資、欧米に移住したアフリカ出身者による出身国への出資があります。資金の透明性を高めることになり、これまでの不透明な資金の流れを一扫すると期待されています。住宅利用者の資金調達はマイクロクレジット。低所得層の住宅ニーズに新たな解決方法を提示しています。

土地所有権の問題は、農村部では部族対立、最悪の場合には死者も出る争いが今もあるそうです。都市部では土地台帳の不正操作による汚職。これをブロックチェーン技術の利用により透明化する動きが出てきています。ガーナでは一般市民が計測や取引の結果をネット上の土地台帳に登録し公開していきます。今はパイロットプロジェクトですが、土地台帳として法的有効性を確立する枠組みが整備されれば、土地所有権の確立と休眠状態の土地資産の活用が期待されています。

ある国の政府主導のプロジェクトは、学校・商店・医院を配備し750棟も建設するプロジェクトもあるそうです。想像もできないような人口増加率に対する住宅供給規模は、日本と比較すると桁外れ、規格外、どんな比喩も当てはまらないほどのビッグプロジェクトです。

テレワーク 働き方改革（在宅勤務）とは？

総務省の「通信利用動向調査」によるとテレワークとは、ICTを活用した時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方と言っています。さらにテレワークは3つに分類されています。「在宅勤務」「サテライトオフィス勤務」「モバイルワーク」。2018年の企業の導入率は19.1%。その導入目的は「労働生産性」「移動時間の短縮」「優秀な人材の雇用確保」が上位にあります。

テレワークを利用する目的は、子供の病気や親（介護など）に関するものが2大要因。台風や災害時の利用がこれに加わります。ある実証実験ではテレワークを採用した企業では一人平均月1.7日の取得といった結果が出ています。ずっと会社に顔を出さないということではなく、何かあったときに仕事を継続することができる環境が整えられているということが現状テレワークの利用形態のようです。